



有名ルートはやはり快適

## 鳥海山 大平ルート、祓川ルート山スキー

手嶋

【日時】 2010年5月2日(日)～4日(火)

【メンバー】L手嶋、鈴木、佐藤、金沢、池田、坂村、福永

毎年恒例の鳥海山山スキー、今年は古野も海外にいて参加できないので、軽く有名ルートをやろうということで計画を始めた。車が2台になったので出た案が、祓川から短時間で頂上に登り、私がつどった数ある鳥海山のルートの中で最高だと太鼓判を押せる、朱ノ又川ルートを滑るといもの(ちっとも有名ルートではない)。

折しもろうまん山房の高桑さんパーティーが同時期に鳥海山に入ることを知り、ならばこのルートと一緒に、そしてテン場で合コンをやりましょと話が進んだ。

5月2日

前泊の寒河江SAから鳥海ブルーラインに向かう。途中の道の駅で海産物を仕入れ、付近の山でタラノメを採取。今年は春が遅いのでいつものパターンが成り立つか心配したが、まずは天ぷらの材料はゲット！ブルーラインに入ってからもう一度山菜採り。

初日の半日で企画した大平ルートは、頂上まで行かないので割と楽なルート。ただ有名ルートだけに駐車スペースを見つけるのに結構苦労した。鈴木は風邪で体調悪く今日はお留守番。トレースだらけの斜面を歩き始める。このあたりすでに木は灌木程度で広々とした斜面、天気が良く展望も良い。

坂村がまだ本調子ではないということで心配しながらゆっくりと歩いたが、結果翌日も含め全く大丈夫だったようである。これは本人にとっては大きな収穫だろう。

緩く広大な斜面を登っていく。やがて正面の新山の真上に3重くらいの綺麗なレンズ雲がかかった。「レンズ雲は悪天の前兆だよな。」と話題になる。最後やや急な斜面を一登りすると、御浜神社下の鳥海湖が臨めるピークに出、ここで終了。しかしレンズ雲が物語るとおり、瞬く間に視界が悪くなり雪が降り出した。その天候変化の早さは特筆ものだ。

急いで滑降開始。斜度は緩く、何ら問題ない。雪質もいいザラメ。今日が当会初の山ボードの金沢、福永も問題なくボードを滑らせている。下りは山スキーの常でそれこそあつという間。最後少し急な斜面から駐車場に滑り込んで今日の行程は終了した。私が前回このルートをやったのはたしか93年だから17年前。その日はずっとガスがかかっていて行ってきただけだったが、やはり晴れた日は快適だった。

ここから今回のベースを置く布沢川付近へ鳥海山を半周し遠路車を走らせる。形を変

え行く鳥海山の眺望を充分に楽しみながら現地に着。ここで高桑パーティーと出会うはずだが見当たらない。電話が通じもうすぐ着くとのこと。川から一段高い平坦地にテントを張りしばして彼らが到着した。やあやあの握手を交わす。

今日はもう夕刻なので、焚き火や天ぷらは明日にすることにして、テントで合同宴会を楽しんだ。

5月3日

祓川の駐車場の混雑が予想されたので、6時に出発した。しかしそれでも遅かった。一番高い駐車場はもう停められず、一段低いところとなった。これでも今日の混雑を考えればラッキーだった。

今日は晴れてはいるが風が強い。おそらく昼ごろになれば弱くなるだろうと予想するが、どうだろうか。祓川

の広大な平坦斜面を過ぎ、登りにかかる。鳥海山の特徴は、斜面と平坦地が交互に続く。このルートは大きな登りが4つほどあったと思う。

七ツ釜避難小屋で大休止。中に入るとこじんまりして快適そうな小屋だ。あたりは不思議と風が弱い。やはりそういう場所に小屋が作られているのだろう。ここから再び急登が始まる。また風が強くなる。

頂上下2つ目の斜面あたりになるとますます風が強く、あたりは雲の中に入った。ボードをかついでいる2人は苦勞している。後で聞くと風で飛ばされたとか。山ボードも確かにこういう状況だときついことが想像される。

あと1ピッチという頂上直下大斜面になる頃には、天候はかなり険悪な様相になった。ようやくにして着いた頂上はもちろん強風ガスの中。トマ、ろうまん全員で記念撮影をして、早々に滑り始めた。

今日はGPSが2台あるので、ガスの中でも大丈夫だろうと踏んだのだが、やはり山スキーはそう甘くはない。ルートは真東に行くのだが、歩きと違ってスピードが速いので、最初のちょっとした角度のずれがすぐに大きなものになってしまうのだ。随時方向を修正しながら私がトップで滑るが、非常に難しい。いくら高度を落としてもガスから抜け出られない。



「高桑さん、すみません、遭難しました。」「了解！」ということで、この天候の中心ポイントの予定ルートに行くのは危険だと判断して諦め、登路を戻ることにした。残念だが素晴らしいルートなだけに、こういうところは好天時にいきたい。

元に戻るには北に延々トラバースだ。猿倉ルートのトレースを越えさらに行くと、トレースの入り乱れた祓川コースに出会って一見落着。ここを滑り始める。鳥海山でこんな人臭いところは最近滑ったことはないのだが、そこは鳥海山、やはり豪快だ。安全地帯に出たので余裕が出てくる。高度的にもようやくガスから抜け出した

皆滑る滑る。快適快適！ろうまん山房は全員テレマーク。皆さん華麗な滑りだ。今回うちの中では唯一のテレマークの坂村の滑りも、かなり豪快華麗だ。池田の滑りはゲレンデ仕込み。ボーダーの2人も楽しそう。平地では進むのに苦労しているが。

避難小屋で休んでいると、地元のNHKが来てインタビューを受けた。本当は有名人の高桑さんに出演して欲しかったが、皆が許してくれない。結果インタビューを私が受けたが、まわりから皆で写真をとるやら冷やかされ、笑いを抑えるのに苦労をした。私の後池田が同じくインタビューされた。東北地方で5月19日以降に放送されるということだったが、放送されたのだろうか。



あとは快適な滑りが二滑りくらいで祓川の平坦地に到着、さらに駐車場までは一滑りだった。有名ルートではあったが、やはり鳥海山の豪快さはいささかも崩れるものではないいいルートだった。

ベースに戻り、今日は焚き火をして外で合同宴会。こんなに素材があったかというほど天ぷらはいつまでも続いた。鈴木が釣り上げた岩魚が場を盛り上げた。

5月4日

前日の予報が悪く、今日はもう帰るだけとした。実際は結構晴れたのだが、十分に満足した我々は温泉に入って帰途についた。

【行程】 5/2 登り2時間半、下り1時間

5/3 登り4時間半、下り3時間くらい（ルート変更など含む）

【地図】 鳥海山、小砂川、中直根